

議 事 録

会議名 第6回国見版 CI 策定検討委員会

日 時 令和6年3月26日（火）13：30～14：55

出席者 委員：8名（斉藤委員長、三栗野委員、鈴木委員、近久委員、齋藤委員、上神田委員、原田委員、伊藤委員）

欠席3名（持地委員、佐藤委員、阿部委員）

事務局：企画調整課長、蓬田、加藤

傍聴：2名

概 要（意見交換等抜粋）

1 開会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

（1）国見版 CI（コーポレート・アイデンティティ）について

- ・事務局より「寄り町STAY国見町」に関する意見公募の概要、結果を説明。
- ・(株)パーティ・フーより素案及びこれまで調査してきた町の魅力について説明。
- ・今後の進め方について事務局案としては、これまで2年間調査やワークショップを通して町の魅力の掘り起こし作業をしてきた。それらの成果を改めて整理し、スローガンとグラフィックの素案部分について見直ししたいと考えているが、今後の進め方について委員のみなさまからご意見をいただいた。

（2）その他

4 閉会

議事録（詳細）

1 開会

2 委員長あいさつ

今日のC I 検討委員会も何か恵みが生まれるような会になれば良いなと考えています。よろしくをお願いします。

3 協議事項

(1) 国見版CI（コーポレート・アイデンティティ）について

- ・事務局より「寄り町STAY国見町」に関する意見公募の概要、結果を説明。
- ・(株)パーティ・フーより素案及びこれまで調査してきた町の魅力について説明。
- ・今後の進め方について事務局案としては、これまで2年間調査やワークショップを通して町の魅力の掘り起こし作業をしてきた。それらの成果を改めて整理し、スローガンとグラフィックの素案部分について見直したいと考えているが、今後の進め方について委員のみなさまからご意見をいただきたい。

【進め方に対する意見】

委員

- ・こういった経緯で議会でゼロベースにするという話が出たのか気になった。出された意見ではこれ以上予算を使うなといった反対意見もあるが、来年度の予算は承認されていると思うので、残りの1年を無駄にしないためにどのような進め方を今後していくのかを固めないと、この先も心配がある。

事務局

- ・新年度予算の審議の際に議員のみなさまからC I 事業について、どのように進めているのかなどさまざま意見をいただいた。意見公募でも見直したほうが良いという意見もいただき、また議会でも分かりにくいといった意見があり、事務局の説明が不足していたと感じている。次年度以降どのように進めるのかについては再度事務局で早急に練り直し進めたいと思っている。

委員

- ・町に住んでいる内部から見れば国見町は国道4号線があり、インターもあり、藤田病院もあり条件的には恵まれているが、長く住んでいると当たり前になってしまう。齊藤委員長やパーティ・フーから国見町はこういうところなんだよと言われると改めて気づきがあった。国見町って一言で言ったら何？と言われると困る。交通の要衝であり、文化的なことも受け入れる要素は他の地区よりは寛大なのかなと思う。いちばんは働き者が多く、豊かな町だなと思う。年間平均気温は夏が暑いこともあり東北では国見が上位にいると思う。あって当たり前になってしまっているところもあるので、国見町の良さをアピールできれば良いと思う。

齊藤睦委員長

- ・これから進めていくときに何か町の良さがもっと浸透していくような、町民にも伝わるような進め方を考えてもらえるといいと思う。

委員

- ・2年間話し合ってきてさまざまな町の魅力が出てきたが、この先これ以上のものはなかなか出てこないのではないかと思う。何が足りなかったかを考えたときに、理念のところの言語化が伝わっていなかったと思う。私もよくわかっていない部分があった。デザインについて辛辣な意見も寄せられているのでゼロベースにするのは良いが、今までの2年間も無駄にならないければ良いなと思っている。出された意見の中で「観光地として一旗あげる印象を受ける。」とあったが、国見町は観光というよりは日常生活の中に魅力があると思っている。

斉藤睦委員長

- ・「寄り町」というと観光振興するののかという印象を与えるかもしれない。表現の仕方で工夫する余地があるのかなと思う。

委員

- ・パーティ・フーからの説明を聞き、内容は分かるが「寄り町」という言葉でなく、別の言葉でも表現できるのかなと思った。今までの2年間でさまざまな案が出され、最終的に「寄り町」という言葉が出され、その言葉もみんなが良い言葉だ、使っていくべきだとの話はなかった。ここまで引っ張ってきてゼロベースと言われたが、これまで「寄り町」で進めてきた以上、なぜ今辞めてしまうのかは疑問。このまま突き進めようとはならないのか。辞めるのであればもっと早めに違う言葉にすればよかったのではないか。

事務局

- ・仰る通りだと思う。「寄り町」について提示するまで時間がかかってしまったのは事実で、事務的に進め方がまずかったという責任は事務局として感じており、申し訳ありませんでした。意見公募をしてさまざま意見をいただいた中で、今であれば修正できるかなと考えた。アウトプットの部分はゼロベースにするが、これまで積み上げてきたものは活かしながら再度やり直したいと考えている。このデザインについては事務局としてはこだわって作成し提示している。町の要素を入れ込みデザインしたが、提示した際に町民の方とのずれがあった。今まで検討してきたものを活かしながら、より良いものをつくっていきたいと考えている。

委員

- ・最終的なアウトプットの部分は正直しっくりきていなかったもので、ゼロベースにしていくこともひとつだとは思う。ゼロベースの意味としては、これまで2年間で情報収集してきたので、その土台の上にもどのようにアウトプットしていくかだと思う。今回デザインができるまでのプロセスを聞き、説明の最後に情報収集のイメージパースが出されたが、あのパースは情報は網羅されているが整理はされていないと思う。整理されていないなかでグラフィックをつくと今の素案のようになると思うので、今後は何を削っていくかの作業を行いながら整理していくことが必要。1つ良いなと思った点は、行政の委員会の仕組みは割と予定調度で話が進んでしまうことが多いが、当委員会は本気で議論してだめなものはだめと言っている今の環境は大事にしていきたい。基本的には再検討についてはまた協力していきたい。

斉藤睦委員長

- ・この時点で見直しをかけるという判断はとても大胆だと感心している。一度立ち止まり考えようとなるのは、これまでさまざまなものを受け入れてきた町の体質もあるかもしれない。

委員

- ・検討の過程がこれまで見えなかったことがよくなかったと思っている。来年度以降、検討の過程や検討委員会の活動ももう少しオープンにしていければと思った。デザインに落とししてい

くにあたり、公募したり、大学のゼミと連携し学習を通して地域のことも調べながらデザインしていくということもあると思うのでもう少し開いた方法で進めていくことも良いと思う。検討委員会の立ち位置や権限が分からないまま参加していたところもあり、どこまで踏み込んで良いのか分からなかった。事務局と検討委員の関わりをもっと整理できたらと思う。

斉藤睦委員長

- ・検討委員会の在り方については、委員として意見を述べることは難しいことではあるが、他の自治体に比べ、委員のみなさんからはとても率直に意見を述べていただいたと思っている。

委員

- ・最後のためみなさんと重なるところもあるが、決め打ちで進める流れになるところを一旦立ち止まろうとなる雰囲気は素敵だと思う。前回の委員会が初めての参加だったが、意見公募でも5名から誠実な意見をいただいた。公募の要件に関しても実名で町民の方からのみという厳しい内容だったが、想いがあって自身の時間を割いて意見を出してくださっているので重く受け止め、ゼロベースというよりは一度立ち止まり見直すのはとても大事だと思う。「寄り町」という言葉を私は見慣れてしまったが、別紙1の意見にあるように初めて見た町民の方は、急にワードとグラフィックが出てきて、町は観光に力を入れて進め、町民が疎外感を感じたりしていないか不安になった。世代間でも受け取り方は違い、多くの方から良いと思ってもらえるものを作ることは難しいが、そのためにも誠実に透明性のある進め方をしていくことが大事。この2年間の動向を全て追えているわけではないが、次の1年間に活かせる課題点は多くあると思った。別紙2の意見で「STAY」という言葉について命令口調に聞こえるとの意見があったが、その通りだと感じた。委員会の中でなかなか言語化できなかった部分の意見が5名から集まっているので一度立ち止まり、これまでの課題として透明性を出す、委員会の立ち位置として例えば過半数の同意があった場合には進めるといった確かな指標があると進めやすいのかなと思った。グラフィックも1種類ではなく、多世代が住んでいる町なので、若い層にうけるデザインにするのか、子どもも含めた子育て世代向けにするのか、70歳代以上にするのか、世代により好き嫌いが分かれてしまうので、さまざまな案を出すほうが、町民の方は一方的な押し付け感がないのかと思ったので、どのように進めていくのか、ある程度の指標は示したほうが良いと思う。

斉藤睦委員長

- ・みなさんの意見のまとめをしていただいたような意見をいただいた。デザインは複数案あったほうが良い、最終的な決め方も示していないといつまでも意見を述べるだけになってしまうといった意見が出された。

事務局

- ・意見をいただきありがとうございました。さまざま意見をいただいたので、期間は短いですが、まだ再検討ができると考えているため、はじめにプロセスを組んで了解をもらい、さまざまなデザインを出し、みなさんで選んでもらうという形で、現時点では概略だがそのような方向で進めたいと考えている。早急に進めていきたいと思うので、委員のみなさまは引き続きよろしくをお願いします。

(2) その他

委員

- ・別件で話をしているなかで低炭素、CO2削減の話題があがった。エコハウスに取り組んでいる委員もいるが、国見の認知度を上げ、他市町村との違いを出してかなければならない中で、低炭素を進めていくこともおもしろいのではないかと考えており、農業を中心に進めていけば良いと考えている。低炭素の町を目指していくといったような方向性があると決めやすいと思った。

委員

- ・別紙1に企業のC1事例をまとめているが、そんなに具体的に言っていないという改めでの発見があった。なるべく受け皿は広い意味で受け取れるもののほうが良いと思った。「寄り町」だとどうしても「寄り道」のイメージが強く、観光的で、寄った先は？と聞かれてからやっと答えが伝えられるといったような、自分の中でまだ疑問に思っている点があった。どこかに特化しても広がりがあるから良いというワードもあると思うが、ワードセンス的にはあまりにも具体的すぎると反感が生まれるという難しさを感じた。先ほどの意見の中で、豊かな土壌や人柄も豊かで、日照にも恵まれて、人々が恵まれて育まれていっている。芽吹き部分がキーになりそうだと思う、作物も良く育ち、人のスキルも育まれるビジネス訓練所もあり、もっと育むなど抽象的なワードのほうが良いのかなと思った。他の自治体で既存のものがある場合もあるので、誰が判断して決めるのかなど、どう決めていくのかの進め方の提示は必要。先ほどのスライドでは具体的なほうが良いとあったが、個人的には抽象的なものでも良いのかなと感じた。

委員

- ・C1といってしまうと町の理念になってくるので、それを私たちが決めるとなると正直重荷。えらい方々が何を考えているのかが分からないので、判断するにも何を基準に決めて良いのかが分からず、言えないことが多い。誰をターゲットにしたい、こういう町にしたいというのが分からず、先ほどの資料でも、今無理やりは呼ばないが町民が幸せに暮らしていれば移住者は来るよねとあったが、気持ちはわかるがそれで良いのかと思った。個人的な意見としては、町の舵を取っていく方々が町をどうしていきたいのかが気になっている。来年度進めていく上での決定する基準のひとつになるのかも含め、もう少し整理してもらえるとありがたい。

委員

- ・雲仙市の国見町で「寄りまち」という同じ単語を使い、まちおこしをしている。被ってしまった時に使ってはいけないのか、商標登録されているわけではないので相乗りしてもよいのかなどの判定基準はあるのか。せっかく考えて作っても既に使われてしまっている場合もあると思うと嫌だなと思った。委員としては農業・工業・商業など各分野の人がいるので、各々の立場で感じていることを発言すれば良いのかなと考えている。

(株)パーティ・フー

- ・調査している中、国見町で偶然同じワードを使っていることがわかった。雲仙市の方は商店街の中で取り組みを進めていくときのワードとして使っていたようだ。事務局と協議し問題ないということで進めていた。

斉藤睦委員長

- ・すでに商標登録されている場合は冒してはいけないが、決め方の前提の整理は事務局でおかないと委員が迷ってしまうおそれがある。

事務局

- ・整理して進めていきたいと考えている。

委員

- ・みなさんの話を聞いて思ったが、結局国見町の交通の便が良いのは物理的な地形が福島盆地のいちばん北側にあり山の間を通らないと宮城・山形に行けず、たまたま交通網が集まっている。歴史的に防壁ができたことも地形が要因。福島盆地の地形が桃を作るときの日照にも影響しているので、今の私たちの生活を支えている地形や気候について言語化していくことが良いのかなと思った。

斉藤睦委員長

- ・たしかにこの地形はありがたいと感じた。今日はさまざまな意見が出され、一旦立ち止まるという勇気ある決断を事務局がした。今年度のまとめとしては問題として出されたことを再整理し、それらをベースに1年間また検討してみるということになった。以上で協議を終了する。

4 閉 会